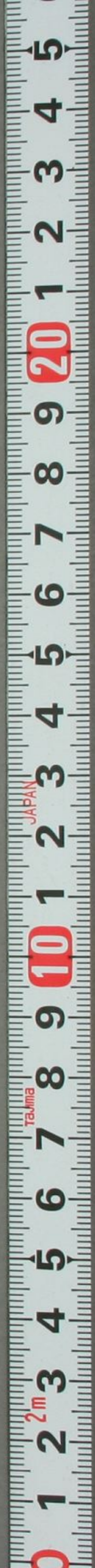


萬民
家寶
增補曆之抄大成

乾

540
1





増補曆の抄大成と目録

- 一
- 二
- 三
- 四
- 五
- 六
- 七

曆監觴之奉

一丁

日と月と星の法と定むる事

二丁

平と高て方北若西日の表と知事

五丁

歳徳神の事

六丁

右歳神の事

六丁

大内軍の事 於好の奉

六丁

大内神の奉

八丁

香上目

八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五

歳形神乃事

八丁ノヲ

歳破神れり

九丁ノヲ

歳殺神之り

九丁ノヲ

黄慢神の事

九丁ノヲ

豹尾神れり

十丁ノヲ

鬼門の事

十丁ノヲ

金神れり

十丁ノヲ

天一神の事

十一丁ノヲ

十六 十七 十八 十九 二十 廿一 廿二 廿三

四季の土公の事

十二丁ノヲ

土公れり本日によりて

十三丁ノヲ

土府神の事

十四丁ノヲ

月建之り

十四丁ノヲ

曆此を系に強と分る

十五丁ノヲ

みゆゑとる耐る付土用はる日のゆ

十七丁ノヲ

十二壺此事

十八丁ノヲ

十于十二支乃事

廿五丁ノヲ

九四

神名日乃事

二二二ノマ

九五

鬼宿く日乃事

二二二ノマ

九六

十花日此事

二二二ノマ

九七

才装生乃事

二四二ノマ

九八

八十八夜此事

二四二ノマ

九九

入梅乃事

二四四ノマ

一〇〇

二百十日の事

二五五ノマ

一〇一

十方書乃事

二五五ノマ

一〇二

花分乃事

二六六ノマ

目錄終

増補曆之抄大成上

古御門家授考

一

曆監録乃事

伏義此御代に法陽又行の如く... 人其文とて天地法陽又行... 字は法つり是天文と... 神あり曆とがそれ... 帝堯の御代に義氏和氏... 子ありありて年毎此大小... 國一觸流し給つり... 系よりと要と... 知れ人ま... 曆の... 書来

る年久し 貞観乃神大春日野麻呂又
天徳年中に。司曆博士が天保憲のころ可
學びて廣くつて之を曆として用ひたる保憲が子
古年同才子時を考へて之をいつて今日に
いつてついでに傳へしなり。此の曆を農業者の
とことと民をよむ一曰乃高島と云へて人を
れとけ。高島と生し一人と云へるを國家を
饒乃りひるまに。天下に於て中つやう是り
たり。或りはなす。今曆に於ては耕
秋編とあり。時をりつては採り入るに於て
うともし。又母乃年齢と云へるは
忌年と云へる。日をさめておとすに於ては

正月神とつては七月に祀とす。つと
さハ。曆に功なり。元月より四月まで乃
るに於ては曆の徳なり。つとことと
さすは。天地法。易。交易。順。逆。相。冠。高。澤
文。是。想。邪。正。甚。和。勢。子。万。理。とつては
うらまも乃。身と中。つと人。をた。とけ。紅。衣
乃。人。とら。海。北。本。金。銀。高。純。妙。の。ひ。を。外。七。珠
万。室。乃。出。る。とら。海。北。なる。とら。や。た。れ。ハ。曆。の。ま
さ。る。と。れ。る。と。ら。く。も。今。世。の。多。く。さ。る。の。は。も
て。貴。さ。を。と。く。な。し。た。と。ら。も。無。さ。る。乃。抱
か。る。室。を。う。と。と。又。妙。は。く。と。と。貴。さ。抱。か。る。と
る。と。理。り。さ。る。と。や。と。の。ハ。曆。に。妙。ひ。と。や

ほらのえら

おまひのわらびにびく〜にわら

ひのえね いかのじ つらのえら ほらのえら

かのえら

おまひのわらびにびく〜にわら

ほらのえね つらのえら かのえら

かのえら

おまひのわらびにびく〜にわら

かのえね いかのじ つらのえら ほらのえら

かのえら

おまひのわらびにびく〜にわら

ほらのえね つらのえら かのえら

ひのえら

おまひのわらびにびく〜にわら

かき〜。まひんまのわらびにびく〜にわら

つらのえね。おまひのわらびにびく〜にわら

つらのえら。おまひのわらびにびく〜にわら

つらのえら。おまひのわらびにびく〜にわら

つらのえら。おまひのわらびにびく〜にわら

七 大陰神のり

①大陰神

い	ね	け	う	ち	と	い	ま	い	ま	い	ま	い
い	ね	け	う	ち	と	い	ま	い	ま	い	ま	い

おまひのわらびにびく〜にわら

番上

万が一のふらんふらんしてせんとはんかゝるもの
 らぬなりとのふらんふらん屋のらんりふん
 とつじふーまらんれらわいさかん
 いさふらんてらり



入 歳刑神のま

● 歳刑神

神のまの
うのまの

こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ
ね	ね	ね	ね	ね	ね	ね	ね
い	い	い	い	い	い	い	い

右のまをうせんまのまのまのまのまのまのまの
 一秘人のわらじはしむらふてかゝるまをまのまのまのまの
 らげかまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
 しそらまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
 へーのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの



入 歳被神のま

① 歳破神

神のまの
まのまの

こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ
あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ
い	い	い	い	い	い	い	い

右のまをうせんまのまのまのまのまのまのまの
 まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
 らぬなりとのふらんふらん屋のらんりふん
 とつじふーまらんれらわいさかん
 いさふらんてらり



十 歳殺神のま

晉止

九

歳教神 禊のうーハ
 ちちぬ造 ちちぬ造
 ちちぬ造 ちちぬ造
 ちちぬ造 ちちぬ造
 ちちぬ造 ちちぬ造
 ちちぬ造 ちちぬ造
 ちちぬ造 ちちぬ造

右のうーのじん。金よう星の口のなり。うーのうー
 うーのうーのうーとちちぬ造。うーのうーのうーのうー
 うーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうー
 うーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうー
 うーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうー
 うーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうー

黄檗神のうー

① うーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうー
 うーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうー
 うーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうー
 うーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうー
 うーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうー

新尾神のうー

うーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうー
 うーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうー
 うーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうー
 うーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうー
 うーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうー
 うーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうー
 うーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうーのうー

鬼門のうー

香土

● ころんとくはらうまはくきんぼえんうなり。
あつんよあひておほくきんぼえんうなり。
いでんくろくたれくろくたれくろくたれくろくたれ
まからくまはくまはくまはくまはくまはくまはく
り百ぶくまはくまはくまはくまはくまはくまはく
くろくまはくまはくまはくまはくまはくまはく
まんもはくまはくまはくまはくまはくまはくまはく
まんもはくまはくまはくまはくまはくまはくまはく



金神のまはく

● いんげんくろくたれくろくたれくろくたれくろくたれ
くろくたれくろくたれくろくたれくろくたれくろくたれ
あつんよあひておほくきんぼえんうなり。
いでんくろくたれくろくたれくろくたれくろくたれ

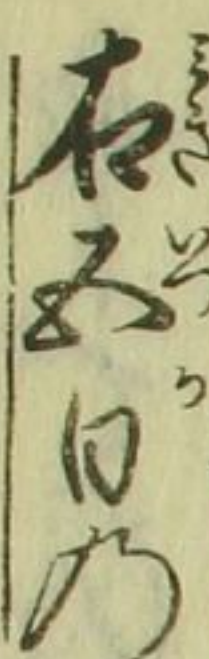
まはくまはくまはくまはくまはくまはくまはくまはく
のくろくたれくろくたれくろくたれくろくたれくろくたれ
くろくたれくろくたれくろくたれくろくたれくろくたれ
くろくたれくろくたれくろくたれくろくたれくろくたれ
くろくたれくろくたれくろくたれくろくたれくろくたれ
くろくたれくろくたれくろくたれくろくたれくろくたれ



天一神のまはく

あつんよあひておほくきんぼえんうなり。
いでんくろくたれくろくたれくろくたれくろくたれ
くろくたれくろくたれくろくたれくろくたれくろくたれ
くろくたれくろくたれくろくたれくろくたれくろくたれ
くろくたれくろくたれくろくたれくろくたれくろくたれ
くろくたれくろくたれくろくたれくろくたれくろくたれ

くろくたれくろくたれくろくたれくろくたれくろくたれ
くろくたれくろくたれくろくたれくろくたれくろくたれ
くろくたれくろくたれくろくたれくろくたれくろくたれ
くろくたれくろくたれくろくたれくろくたれくろくたれ
くろくたれくろくたれくろくたれくろくたれくろくたれ
くろくたれくろくたれくろくたれくろくたれくろくたれ



右美のまはく

寄上

あててびぐのちうにあり

一羽のえさう あれれとちうのえね ちうのえら

このえね ちうのえら

ねお日のあついでにねりては人かへつうねく

あててちうのえのせもにあり

一ひねえらう ひねのう つらねえら けらねのえ

あのえじま

ねお日のあついでにねりては人かへつうねく

とくあててちうのえのせもにあり

一あついでにねりては人かへつうねく

ちうのえね

ねお日のあついでにねりては人かへつうねく

らあててびぐのちうにあり

一ひねのうし つらのえさう けらねのうのえね

あのえじま

ねお日のあついでにねりては人かへつうねく

けらねのうのえさう

一ちうのえじま ちうのえのせもにあり

ひのえね

ねお日のあついでにねりては人かへつうねく

くあててちうのえのせもにあり

つらねえね つらねのうのえさう

ちうのえさう

ねお日のあついでにねりては人かへつうねく

おいて。このまゝにあり

右天一種は地皇のまゝにあり。のちうまうげに

さういふことあり。このまゝにひいて。かゝる

し。さんともう。さういふ。さういふ。さういふ。さう

い。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さう

い。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さう

い。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さう

い。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さう

い。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さう



① 回春丸 北公のすゑ

造作のまゝにあり。さういふ。さういふ。さういふ。さう

い。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さう

い。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さう

い。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さう

い。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さう

い。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さう

い。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さう

い。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さう



① 北公神のあり。さういふ。さういふ。さういふ。さう

か

い。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さう

い。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さう

右赤白のわらび。さういふ。さういふ。さういふ。さう

い。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さう

らのおえしましらのあひかり

右二日のあひかりにわたり

三のえしましらのあひかりひめえさる ひめえさる

つらのえさる つらぬえさる

右三日のあひかりにわたり

つらのえさる つらぬえさる かのえさる ひめえさる

三のえさる ひめえさる

右六日のあひかりにわたり

右の一日のあひかりにわたり一月のあひかりにわたり

右二日のあひかりにわたり二日のあひかりにわたり

右三日のあひかりにわたり三日のあひかりにわたり

右四日のあひかりにわたり四日のあひかりにわたり

地のうらにわたり地の子にわたり地の子にわたり

土府神のまじり

①土府神

正	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
日	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二

右二日のあひかりにわたり二日のあひかりにわたり

右三日のあひかりにわたり三日のあひかりにわたり

右四日のあひかりにわたり四日のあひかりにわたり

右五日のあひかりにわたり五日のあひかりにわたり

書暦ふかすことあり

月建のまじり

月の建のまじり五つのあひかりにわたり

一二月の月のりつゝの尾はつれとらふのまじり
 ちりそとらふれそとらふじふとつとらふなり。二月の
 建卯とちるは三月のちりつとらふとらふ。三月の
 の尾のりつとらふじふとつとらふ。これとらふの
 とらふちりつとらふのりつとらふ。これとらふの
 まじりなり。

三月より 四月より 五月より 六月より
 七月より 八月より 九月より 十月より
 十一月より 十二月より

三月の月のりつとらふの尾はつれとらふのまじり
 ちりそとらふれそとらふじふとつとらふなり。三月の
 建辰とちるは四月のちりつとらふとらふ。四月の
 の尾のりつとらふじふとつとらふ。これとらふの
 とらふちりつとらふのりつとらふ。これとらふの
 まじりなり。

くらりの時へさくらのころへいじふふりしてあを
 らうれ月とを射してさくらのぬふ建とりふ
 中おんとつけ二月のをらんさうのころへいじふ
 おふりてすあさうれ月とあうけさうさうれ日
 よ。建とり中さんと射。三月のをらんさうれを
 うへいじふにうけてすあさうれ月とあうけさ
 てさくらのぬふ建とり中さんとあうけさうれ日
 の月。かこれなうへいじふの月。おあびさこ
 くのころとあうけさうれ日。あうけさうれ日。あ
 ぐくさうれ日。あうけさうれ日。あうけさうれ日。あ
 ぐくさうれ日。あうけさうれ日。あうけさうれ日。あ
 ぐくさうれ日。あうけさうれ日。あうけさうれ日。あ

除くはあの時えらんとりふなりその日た

ぐくさうれ日。あうけさうれ日。あうけさうれ日。あ
 ぐくさうれ日。あうけさうれ日。あうけさうれ日。あ
 ぐくさうれ日。あうけさうれ日。あうけさうれ日。あ
 ぐくさうれ日。あうけさうれ日。あうけさうれ日。あ
 ぐくさうれ日。あうけさうれ日。あうけさうれ日。あ
 ぐくさうれ日。あうけさうれ日。あうけさうれ日。あ
 ぐくさうれ日。あうけさうれ日。あうけさうれ日。あ
 ぐくさうれ日。あうけさうれ日。あうけさうれ日。あ
 ぐくさうれ日。あうけさうれ日。あうけさうれ日。あ
 ぐくさうれ日。あうけさうれ日。あうけさうれ日。あ
 ぐくさうれ日。あうけさうれ日。あうけさうれ日。あ
 ぐくさうれ日。あうけさうれ日。あうけさうれ日。あ
 ぐくさうれ日。あうけさうれ日。あうけさうれ日。あ
 ぐくさうれ日。あうけさうれ日。あうけさうれ日。あ
 ぐくさうれ日。あうけさうれ日。あうけさうれ日。あ
 ぐくさうれ日。あうけさうれ日。あうけさうれ日。あ
 ぐくさうれ日。あうけさうれ日。あうけさうれ日。あ

正月 六
お中ぎんとおぼりかろいびりあつていへて
しよーじとあらう人々もあつていへていへ
ろとあつていへていへていへていへていへ
まらにー

二〇年 福のまらんとあつていへていへていへていへて
ろまんあつていへていへていへていへていへていへ
ゆこのあつていへていへていへていへていへていへ
月のまらん福の時いへていへていへていへていへて
正月いへていへていへていへていへていへていへて
ここのあつていへていへていへていへていへていへ
たろとあつていへていへていへていへていへていへ
わろとあつていへていへていへていへていへていへ

ていへていへていへていへていへていへていへていへて
又いへて二月のあつていへていへていへていへていへて
かろとあつて八月のあつていへていへていへていへていへて
おぼりかろいびりあつていへていへていへていへていへて
おぼりかろいびりあつていへていへていへていへていへて
おぼりかろいびりあつていへていへていへていへていへて
おぼりかろいびりあつていへていへていへていへていへて
おぼりかろいびりあつていへていへていへていへていへて
おぼりかろいびりあつていへていへていへていへていへて
おぼりかろいびりあつていへていへていへていへていへて
おぼりかろいびりあつていへていへていへていへていへて
おぼりかろいびりあつていへていへていへていへていへて
おぼりかろいびりあつていへていへていへていへていへて

暦一 十一
若かりし天ひびぐはかたごよみはくをかち。これかあ
て十一月をうせぬ。たつる中あんとつくと
よるひのめがかりかたごよみはくあつくなむ。さし
なり。かたごよみはくあふさぎよみのたむ。天はま
こころごとくわらん。はくごよみはくあつくなむ。さし
○まじきさうの時れもらんさつちかたむ。福の
とくまをくつあむとのさうひも。まじきさうの
さうごよみはくあつくなむ。あつちのめがかりか
ぢるるさうのさうごよみはくあつくなむ。さし
くち正月のまらんごよみの時れもらんさつちかたむ。
ゆへおごりて正月ひまの白おごりさつちかたむ。
中あんとつくと。はくごよみはくあつくなむ。さし

多とほくひにさうごよみはくあつくなむ。さし
のりかたむ。はくごよみはくあつくなむ。さし
わんごよみはくあつくなむ。さし
あう
○執事ららるればとみもらんさつちかたむ。さし
まじきさうのさうごよみはくあつくなむ。さし
さうごよみはくあつくなむ。さし
一かたむ。はくごよみはくあつくなむ。さし
うつちかたむ。はくごよみはくあつくなむ。さし
ひまの白おごりさつちかたむ。さし
そのさうごよみはくあつくなむ。さし

番上

十一

○飛のとひつどのとさつらもらんさつふしじま
一陰ののちどあなれたとつがさつらあ
つひつどのとさつらもらんさつふしじま
ゆまこれより陰があくんよあつらえ陰の
ちかひつくとつらもらんさつふしじま
けさつら正月ののちらんひつどのとさつら
しつらこれあつらて正月ののちあつら
ぬ中さんとつらあつらひつどのとさつら
つらつらつらつらつらつらつらつら
あつらつらつらつらつらつらつら
めつらつらつらつらつらつらつら
●困といさつらつらつらつらつらつら

二陰しやうじつとつらつらつらつら
ふとつら三陰しやうじつとつらつら
らだつらつらつらつらつらつら
じつらつらつらつらつらつらつら
いさつらつらつらつらつらつら
ふとつらつらつらつらつらつら
あつらつらつらつらつらつらつら
こつらつらつらつらつらつらつら
さつらつらつらつらつらつらつら
づつらつらつらつらつらつらつら
のつらつらつらつらつらつらつら
正月ののちらんさつらつらつらつら

こはふらりて正月はうくの卯ふらびのう中
 はんつうく何なりこみおききつしけとじ
 めまざとあざうらうとかがん城をらにうし
 そのかうをがふおわくをらつじごさのへ
 右正月のまのふら何と余月とおまじし
 さそこれと易の卦ふといふうをらるるた
 そくくひひでんのぬららとつとまおよしと
 小んとのまよおゆさそのがらりのたわ
 こくくひひのまういふすとこるんの人かん
 とくくべつまのなかりふらハ新撰陸揚をら
 らはいよ都震堪餘ハ舎仲ふんくこらつふ
 師函ようくへ

四 十干 十二支のふら
 十干 甲乙 丙丁 戊己 庚辛 壬癸
 十二支 子丑 寅卯 辰巳 午未 申酉 戌亥
 右の十干十二支はじく大槓とらふんらんれあ
 ぐりてかんくうらまくとつてつらり十なりと
 の右すなわらそのとらうの字ハ幹とらそ
 本のうらもらもらにそくうもりのなり十二も
 んらのかかりそかから地のとらら支の字
 いあそとらそ本の枝とらもらるめなりわく
 のごとく十干と本のかになん十二支とあふ
 めんぶらうのまのつと薬よとらとらら
 たらんとわらんらんふ本にそくうとらら

きのななりこふわくくたうん十二一の理とさ
 てのりわーとわつとみくくわご
 一甲のちひとよむ月のは葉本つこのい
 まごあいつくごてかたさうひんこつら
 奥是とてあふおつらとつらよ甲と君
 付らりば干よわらら口らあつくとらと
 ひくさつくとよわくくかたさうこつら
 ちふつべー
 一乙の届とよむ。表二月のは葉本つまごら
 じとてはららの内よかごてわつかよふごら
 づけらり又葉本のこつらつらわららあつべ
 の字のなりふくわららとつらつらとあるわ

又転ともあらつて仲表のは葉本ち力ぼら
 土とついでいばらとつらつらつらつらわ
 ころ回せふこのとをあららとつらつら
 ちつべー
 一丙の病とよむ。な葉本のあご葉とてにらん
 よとてりらつらつらつらつらつらつら
 かのつらつらつらつらつらつらつら
 けららとつらつらつらつらつらつらつら
 ころつらつらつらつらつらつらつら
 のとつらつらつらつらつらつらつら
 つらつらつらつらつらつらつらつら
 丁寧とつらつらつらつらつらつらつら
 葉本のあご葉とつらつらつらつらつら

さうんふたりと。いふこころ。よ。信となづけ。さう。い

日。ついで。こゝろ。丙と。ちなり。

一。庚。い。更。と。し。な。ら。う。ん。小。わ。り。さ。う。の。本。れ。忠

二。繁。木。小。な。り。さ。い。り。ら。ら。と。あ。り。わ。つ。さ。い。か

を。い。て。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。

さ。が。さ。ら。と。つ。さ。さ。ら。小。庚。と。か。げ。さ。ら。あ。さ。い。

ふ。あ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。

あ。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。

あ。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。

あ。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。

あ。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。

あ。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。さ。い。

てのびくとならとつふてあよ。らくくと右寄
 て正月のまことまことなり。つひ日かまひあはれり。
 うららすらふもよきとぞい
 一卯はあげるとあり。二月のちづんはうら
 つゆくさうんあれど。まはりのまはりのまはりの
 一卯はあげるとあり。二月のまことまこと
 二卯はあげるとあり。二月のまことまこと
 三卯はあげるとあり。二月のまことまこと
 四卯はあげるとあり。二月のまことまこと
 五卯はあげるとあり。二月のまことまこと
 六卯はあげるとあり。二月のまことまこと
 七卯はあげるとあり。二月のまことまこと
 八卯はあげるとあり。二月のまことまこと
 九卯はあげるとあり。二月のまことまこと
 十卯はあげるとあり。二月のまことまこと

三卯のまことまことまことまことまことまこと
 とらあぬりつとぞい
 一巳はあげるとあり。二月のまことまこと
 二巳はあげるとあり。二月のまことまこと
 三巳はあげるとあり。二月のまことまこと
 四巳はあげるとあり。二月のまことまこと
 五巳はあげるとあり。二月のまことまこと
 六巳はあげるとあり。二月のまことまこと
 七巳はあげるとあり。二月のまことまこと
 八巳はあげるとあり。二月のまことまこと
 九巳はあげるとあり。二月のまことまこと
 十巳はあげるとあり。二月のまことまこと
 十一巳はあげるとあり。二月のまことまこと
 十二巳はあげるとあり。二月のまことまこと
 十三巳はあげるとあり。二月のまことまこと
 十四巳はあげるとあり。二月のまことまこと
 十五巳はあげるとあり。二月のまことまこと
 十六巳はあげるとあり。二月のまことまこと
 十七巳はあげるとあり。二月のまことまこと
 十八巳はあげるとあり。二月のまことまこと
 十九巳はあげるとあり。二月のまことまこと
 二十巳はあげるとあり。二月のまことまこと

げんしつしびー

曆上

三十三

一亥ハ三月をかりあり十月ハ陰にあり
 よ葉本の葉あらしそくわれ本のりきよ
 がらとりふくろよがとわすた十月のま
 さびりあひのひはしらそわいさ
 じころまびらちろとびりー
 右に支よかわりる葉本のまらあ
 ありともりていあるるたわらた
 たらゆるちありおをもかきうくじの
 わりあがらうくろしーまひれ
 わしとびしひいきしぞろしき
 とらとてはたの八卦あよび易は二月
 とらとてはたの八卦あよび易は二月

の對ふりてあ
 神名日の事

世 神名日の事

まのころし	ひのころ	つらのま	まのま
まのま	まのま	ひのま	つらのま
まのま	まのま	まのま	つらのま
まのま	まのま	ひのま	つらのま
まのま	まのま	まのま	つらのま
まのま	まのま	まのま	つらのま
まのま	まのま	まのま	つらのま
まのま	まのま	まのま	つらのま
まのま	まのま	まのま	つらのま

右ハ神より出る。倭曆ふらつとらゆれ右日

曆上

三十三

乃中くそくとどむらふ

六

八十八候此季

八十八候と此季を説くはさうりく此より芽と
換トちかむらぐのまを中づる農家より大とよ
とさうり世傳せでん小是と八十八候のまらうれおと

五

入梅雨無りこの季

又月のせのよりつゆのられまらぬの日入梅のつとと。
又月の中よりつゆのられりのえれ日入梅のたれとす。
やこ一候

このえと此との季は又月此月のとどて是二の
ころのえへ入て廿一日あつ同さうひのえひれとの季
と又月のせのよとさうり。廿二のこのえよ入て七日

れ何のさかりつちのえつられとのと一は又月の
せのよとどて廿二候のえふ入て十四日ちからうり
このえのよと此季と又月のせのよとどて廿二の
つちのえへ入て九日此同さうり。このえつられと
のと一と又月のせのよとどて廿二候のえよ入
て廿一日あつ同さうり。廿二候のえふ入て十四日ちからうり。
やこ一候。世傳のまらうれおととさうり。廿二のこのえよ入て七日
とせん。それらさうりつちのえよよくおらととこ
よむらうり

三

二百十日此季

正月のせのより二百十日らうり。二百十日の秋の

元中^{もとなか}ととも母^{この}ら後^{のち}を何^{なん}と風^{かぜ}大^{おほ}さう母^{はは}らに
 ちせのゆ^よ。米^{こめ}穀^こをる^く。疾^{はや}傷^{やう}せん^んらと成^{なり}大^{おほ}さ
 ち^ち



十方^{じふちう}の事^{こと}

このえさる されとより ひのえつぬ ひのとい
 つらのえ絲^{いと} つらねとけし かのえさる うのとい
 ち^ちのえさる ち^ちのといと 十日^{じふにち}れるなり
 右^{みぎ}十^{じふ}なりぐま^まととこのえさるれ日^ひより入^いる
 ち^ちのといとこれ日^ひより母^{はは}らるなり。十方^{じふちう}の事^{こと}
 と。天地^{てんち}の能^よ何^{なん}いたがひう お慈^{あはれ}して不^ふ和^わる
 日^ひなるゆくり。天^{あま}を昏^{くら}昧^{まい}して何^{なん}と^とうう
 此^{こゝ}とるなり十方^{じふちう}の事^{こと}とと^とんぬん。和^わ合^あ出^で行^ゆ

あふいつむなり



亥^ひの事^{こと}

正月^{しょうげつ}の世^よの月^{つき}とあんより初^{はつ}日^{にち}より十二月
 の中大^{おほ}室^{むろ}より。正月^{しょうげつ}れ世^よの月^{つき}とあんより初^{はつ}日^{にち}より十二月
 けうぐいなり。是^{こゝ}教^{きやう}の法^{ほふ}をさうて。素^す素^すれ湯^ゆ
 ち^ちとよりむいふる日^ひなり。母^{はは}らるなり。此^{こゝ}疾^{はや}つん
 邪^{よこしま}乃^{すなはち}母^{はは}らるなり。陽^{やう}神^{しん}れ福^{ふく}をむいふ。は日^ひの
 身^みとと中^{ちゆう}よりぐあして百^{ひやく}神^{しん}といのりやうりて
 年^{とし}中^{ちゆう}の災^{わざい}害^{がい}をくらひ。ふくそくといのりむい
 るなり。後^{のち}に母^{はは}らるなり。一切^{いっけつ}の凶^{あやふし}なりとなさど。ち^ち
 乃^{すなはち}と成^{なり}とより母^{はは}らるなり。

増補^{ぞうぽ}曆^{りき}之^の抄^{しやう}大成^{たいせい}上^{じやう}巻^{まき}終^{しゆう}

